



たくましい村松っ子

令和7年6月30日 第6号
文責：校長 日高 文博

7月生活目標：健康・安全に気をつけて生活しよう

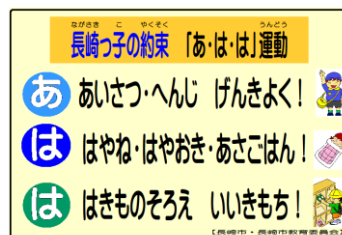
心を見つめる教育週間

6月23日(月)から村松小学校では「心を見つめる教育週間」を実施しました。この取組のねらいは「命の尊さについて考える」ことでした。この一週間、あらためて「命」に関する学習を通して「命の尊さ」のとらえを一層深化させることができたと感じています。初日には教育週間のスタートとして、私から子どもたちに話をしました。「いのち」という詩を紹介した後に、次のように続けました。

命はだいじ、 「だれもが一つもっていて」
「いちど失くすと戻らない」
「じぶんが自分であるあかし」
自分の命を、そして、友達の命も大事に、互いに支えて大切にしていきましょう。

自分も友達と大切にできる村松小学校の462名であってほしいと願っています。

6月28日(土)までの6日間で延べ約600名の保護者の皆様や地域の皆様に来校いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。子どもたちの様子や環境等でお気付きがあればお知らせいただくとありがたいです。なお、昨年度に引き続き実施しました「引き渡し訓練」につきましても、お気付きがございましたらお知らせいただくと今後につないでいくことができます。ご協力ありがとうございました。



校外学習

6月18日(水)に5年生は長崎市科学館や原爆資料館の見学をしました。現地で実際に「目で見る」「耳で聞く」「手で触る」といった体験活動を通して、本物から学ぶ経験をしました。一生懸命メモをとる姿を見て、高学年としての立派な学びの姿に感心しました。今回の学びを今後の学校での学習に生かしていきます。



高校生平和大使活動を行うみなさんのお話を聞く会

6月25日(水)には、4名の高校生平和大使のみなさんをお迎えして、1年生から3年生向けに話を聞く会を実施しました。平和大使のみなさんは、世界の各地で核兵器廃絶や平和な世界の実現を訴え、様々な活動を行っています。低学年に「みんなにとって平和って何だろう」と一緒に考えていただき、「平和のバトン」を更に若い世代へと渡してくれました。



被爆体験講話

6月27日(金)には、城臺美彌子先生をお招きして、4年生から6年生向けに「被爆体験講話」を実施しました。城臺先生は、「みんなが考える平和とは何だろう」と子どもたちの考えを聞きながら、話を始められました。体験した方にしか語ることのできない実感のこもった話に、子どもたちも、保護者の皆さんも引き込まれました。あらためて、「平和のバトン」を長崎市に暮らす私たちが引き継ぎ、次の世代へと確実に渡していくことの責任を重く受け止めました。



※画像は個人が特定されないように処理しています。